プラン・ニュース［2017 Summer］NO.105

PLAN NEWS



キーパーソンに聞く

やくみつるさん

「プラン・スポンサーシップはとにかく楽しい！」

～ホンジュラスの息子との絆を語る～

プランのコミュニティ開発

ベトナム ハザン活動地域からの報告

Because I am a Girl

国際女性デーに語る。女性の抱える問題と解決法

発行：公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン



Profile

やく・みつる　1959 年東京生まれ。早稲田大学商学部卒。81 年「がんばれエガワ君」で漫画家デビュー。新聞・雑誌に多数連載のほか、クイズ番組、ワイドショーにも出演。ほかに、日本昆虫協会副会長、元日本相撲協会生活指導部外部委員など、多方面で活躍中。

キーパーソンに聞く

やくみつるさん

漫画家



1993年から、プラン・スポンサーシップの支援者である、
漫画家のやくみつるさん。交流チャイルドに会いにいったときの心温まるエピソードなど、
プラン・スポンサーシップの魅力を語ってくださいました。

※聞き手はプラン・インターナショナル広報マーケティング部の久保田恭代が務めました。

異国の子どもと濃密な関係性が築ける。
プラン・スポンサーシップはとにかく楽しい。

――プラン・スポンサーシップを始めようと思ったきっかけを教えてください。

やくみつるさん（以下敬称略） 新婚旅行で訪れたボリビアで、バラックで暮らしたり物乞いをしたりと貧しい人々を目の当たりにして、「中南米の子どもたちのために何かできることがあれば」と考えるようになりました。そのとき、偶然、プランのことを知って支援をすぐに決めました。

――そして、当時2歳だったホンジュラスのホアン君のスポンサーとして、交流を始めました。

やく それはもう、彼に過大な期待を寄せましたね。将来、彼が大統領になって、国賓として招待されたらどうしようなどと妄想するくらいでしたよ（笑）。実際は、ホアン君の将来の夢は自動車の整備士で、やけに現実的だなと思ったのですが……彼の村を訪問して、そういう夢を抱く理由がわかりました。支援を始めて9年後の2005年に、初めて彼のもとを訪ねたら、村への道は整備が遅れていて車がガタゴト揺れるし衝撃で車が故障しやすい。整備士になりたいという夢は切実なんだと実感しましたね。

――ホアン君にやっと会えたときの思いは？

やく 本当に、我が子と対面するように感動しましたね。彼はとてもはにかみ屋ですが、会ってすぐに打ち解けられました。また、村をあげての歓迎という感じで、近所の人が集まって一生懸命ご馳走を作ってくれたのもうれしかったです。あんな経験は、普通の旅行ではなかなかできません。文通を通して彼が住む地域のおおよその実情はわかっているつもりでしたが、実際に足を運ぶと、給水施設が整備されている様子など、自分の目で支援の形が見える。自分がしていることは間違っていないと確信できたのもよかったです。

――次にホアン君に会いに行かれたのは、2012年。彼が18歳のときです。

やく もう交流は卒業していたので、近況は知りませんでした。そしたらなんと、すでに結婚していました。奥さんは9歳年上の子持ち！　驚いたのなんのって（笑）。

――そのふたりのために、サプライズで結婚披露パーティを開催してあげたのですよね。

やく 徹夜でお祝いのイラストボードを作って、大きなケーキも買って……本当に喜んでもらって、私も感動で泣き崩れそうになりましたが必死にこらえました。何しろ私は世間では〝イヤなヤツ〟のイメージで売っているので、それは仕方ありません（笑）。でも、彼らが私の存在を「人生の一部になっている」と言ってくれたのもとにかくうれしかったですね。

――今はホアン君と同じ村の女の子、エブリンさんと交流しています。やくさんにとって、プラン・スポンサーシップの魅力とは？

やく 月々外食代1回分ほどの負担額で、遠く離れた子どもと濃密な関係性が築け、その子を訪ねれば普通の旅とは違う貴重な体験ができる。とにかく楽しいんです！

善意を施そうという崇高な気持ちからではなく、楽しいからやってみた方がいいと、皆さまにもお伝えしたいです。また、日本で平和に暮らしているとなかなか途上国の状況がリアルに伝わってこないですが、プラン・スポンサーシップによって実情が見えてくるようになる。そして、世界情勢に対する自分の姿勢が変わっていく、というのもよい点だと思います。





やくさんがホアン君に送った手紙から
（上）虫採りが趣味のやくさん。ホアン君に、ホンジュラスに会いに行って虫採りも楽しみたいと伝えます
（下）ホアン君の、車の整備士になりたいという夢をイラストに

24年にわたるホンジュラスの子どもたちとの交流



1



2



3

1初めてホアン君（当時11歳）の暮らす村へ。ふたりはすぐに打ち解けたそうです。「ホアン君が私の似顔絵を描いてくれたのもうれしかったですね」
2 再会したとき、ホアン君は18歳で妻子持ちに。自宅で結婚披露パーティを開催しました。壁には、やくさんが徹夜で仕上げたお祝いのイラストボードを飾って **3** 現在は成人したホアン君に続き、同じ村のエブリンさん（13歳）と交流。夫妻で家を訪ねました



トークショーで プラン・スポンサーシップの 魅力を発信！

6月1日に、セルバンテス文化センター東京にて「やくみつるさんトークショー　～中南米秘境旅行記！『ホンジュラスの息子』との絆～」を開催。ホアン君との手紙の交流や会いに行った際の心温まるエピソード、また、これまでにやくみつるさんが訪問した中南米諸国の秘境の旅の魅力について語ってくださいました。

撮影：門井朋／Plan International（イベント当日とやくさんプロフィール）



スポンサーからの手紙を受け取り笑顔をみせるフオンさん

チャイルドに会ってきました！

PLAN FROM STAFF

篠原 茜 職員 プログラム部

私は長らくチャイルドと支援者を橋渡しする報告書やお手紙と関わってきました。今回はじめての現地モニタリングで訪れたハザンで話を聞かせてくれたのは、小学校5年生のフオンさん（11歳）。日本のスポンサーと1年前に交流がスタートしたチャイルドです。出発前にスポンサーからフオンさんへの初めてのお手紙を預かり、取材当日サプライズで渡すことに……。



特別な機会にしか着ない民族衣装のフオンさんと（右から３人目）仲良しの友だち

宝物は「家族」

フオンさんは、農業と家畜の飼育をしている父、幼稚園教師の母、そして弟の４人家族。学校から帰ると床を掃いたり、食事の支度を手伝うのが日課。それが終わると、弟とダーカウ（羽けり）をして遊ぶこともあるのだそう。

あなたの宝物は何？と聞くと、「家族です」と答えてくれたフオンさん。彼女を見守るご両親の優しいまなざしに、心が温かくなりました。

大好きな学校、でも……

学校が大好きなフオンさん。好きな科目は算数ですが、ベトナム語で受ける授業はやはり難しいと打ち明けてくれました。国語（ベトナム語）の教科書のお気に入りのページは、「ベトナム戦争に従軍した女性の伝記」。素晴らしい英雄の女性の物語だそうです。

夢は警察官

絵を描いているときが一番楽しいというフオンさん。家の壁には地域の風景や素敵なデザインの服を着た女の子の絵がいっぱい。将来の夢は警察官。「地域の人たちを守りたいから」とフオンさんは話してくれました。これからも教育を受け続け、夢が叶う日が来ることを心から願わずにいられませんでした。

モニタリングを終えて

スポンサーから人生で初めての手紙を受けとったフオンさんの弾けるような笑顔を見て、手紙は困難な状況で懸命に生きる子どもたちを確実に励ますことができると、プラン・スポンサーシップの意義を再確認しました。弱い立場に置かれている少数民族の子どもたち、特に女の子にとって、教育の継続は大きな課題です。すべての子どもたちの権利が守られるよう、政府を含むさまざまな関係者をつなぎ、人々の能力を開発し持続性を高める活動をプランは今後も続けていきます。



（左）絵を描くのが大好き。家の壁にたくさん貼ってありました（右）学校の教科書。フオンさんの大好きな物語は、左の教科書の中に



現地の子どもたちと交流する篠原職員



尊敬すべきベトナムの“同僚”（ホアン／地域統括マネジャー）

ホアンは、20年前に保健省勤務から転身、弱い立場の子どもたちのために、地域開発の仕事を始めました。きっかけは山岳地帯を仕事で訪れたときのこと。「村の子どもに飴をあげたら、それが何かを知らなかった。都会の子どもとの格差の大きさに強いショックを受けました」。今はプランで17年のベテランとして、子どもたちのために国中を飛び回っています。「プランの活動は地域の人々の能力強化を大切にしています。時間はかかるけれど確実に成果がでて、持続性も高い」と語るホアンに多くを学びました。

「弱い立場の子どもたちに明るい未来を！」とメッセージを寄せてくれたホアン

～ベトナム・ハザンの場合～

山岳地帯の少数民族の村で子どもたちの教育や栄養女の子の権利推進に取り組む

SPECIAL



ハザンには、急斜面を切り開いて作られた美しい棚田が広がっています

皆さまのご支援のもと、プラン・スポンサーシップの活動が地域にどのような効果をもたらしているのかをリポート。
ひとつの地域にさまざまなプロジェクトを同時に進行させ、多方面から地域が抱える問題にアプローチすることで、迅速かつ確実な解決を目指します。
第4回は、山岳地帯のベトナム・ハザンの様子を、プラン職員の現地報告とともにお届けします。

女の子2,000人がライフ・スキルを学ぶ

Project.3
早すぎる結婚・妊娠のリスクを広め女の子の権利を推進

早すぎる結婚は、女の子から教育を受ける機会を奪うだけでなく、幼い体での妊娠出産により、女の子を病気や死の危険にさらします。背景には伝統的慣習のほか、性と生殖に関する健康について学校や家庭で情報が得られないことや、子ども保護の仕組みが脆弱なことが挙げられます。プランは地域の学校に「女の子クラブ」を作り、人身取引や性的虐待、早すぎる結婚から身を守る知識を身につけられるようトレーニングを実施。この10年で58のクラブの約2,000人がスキルを身につけました。

参加者の声：ニュンさん
（14 歳・女の子クラブのリーダー）

「クラブの40人のメンバーたちと学んだことを村に持ち帰り、親や友だちに早すぎる結婚の危険性や教育の大切さを伝えています。その結果、自分が知っているだけでも14人の女の子が結婚をやめることができました！」



夢はアクション映画の俳優になること

ベトナム・ハザンはこんなところ



中国と国境を接するベトナム最北部の山岳地帯。近年は気候変動の影響で災害リスクも高まっています。人口の 95％を、モン族、ヌン族、タイ族など独自の文化を持った 22 の少数民族が占め、米やとうもろこし、家畜飼育、林業などで生計を立てています。プランが活動する地域の貧困率は依然 60％と、ハノイなど都市部との大きな格差が生じています。プランは 2007 年に支援を開始しました。

子どもの栄養不良率が5%低下

Project.2
親たちへの総合的な支援を通じ子どもの栄養改善を図る

地域の貧困に加え、親や保護者の子どもの栄養に関する正しい知識が不足していることで、子どもの栄養不良率が国内で最も高いのもハザンが抱える問題。プランは栄養や乳幼児の健康についてのトレーニングを提供するとともに、生計向上につながる野菜栽培や家畜飼育を導入し、貯蓄貸付グループの活動を支援しています。この10年で、子どもたちの栄養不良率が5%低下しました。

3歳未満の子どもの入園率が5倍に

Project.1
子どもたちが安心して学べる環境づくりを支援

少数民族の子どもたちは入学と同時にベトナム語の壁に直面します。ベトナム語ができなければ知識を習得できず、就学率、卒業率に深刻な影響を及ぼします。プランは140の幼稚園を新設したほか、42の読書・遊びグループを結成し、図書提供と読書の推進を図り、1,300人の子どもたちが民族の言語とともにベトナム語も習得できるよう支援。この10年で3歳未満児の幼稚園入園率は5%から25%に増加しました。

参加者の声：ヒエンさん（幼稚園の先生）

「新しい幼稚園ができる前は、5歳児クラスしかありませんでした。今はもっと年齢が低い子どもも毎日登園してきます。親たちの関わりも増え、給食作りも交代で担当してくれます。子どもたちもベトナム語や歌を楽しく学んでいます」



３歳児クラスの子どもたち

「国際女性デー2017イベント」で日本や途上国の女性が抱える問題と解決法を探りました。

International Women's Day 2017

3月3日にプラン・インターナショナルが開催した「国際女性デー2017イベント」。
登壇した朝日新聞社AERA前編集長の浜田敬子さんとプラン理事長の池上清子による、
世界の女の子や女性が輝くためのさまざまなヒントと助言をお届けします。

撮影：田村浩章/Plan International（舞台上とプロフィール写真）





浜田敬子
（はまだ　けいこ）

ビジネス インサイダー ジャパン総括編集長。朝日新聞社 AERA 前編集長。朝日新聞社に入社し、女性の生き方や雇用問題、国際ニュースを中心に取材。AERA 編集長などを経て、4月1日より現職。現在、テレビ朝日「羽島愼一モーニングショー」のコメンテーターも務める。2017年1月、プランのカンボジアの活動地域を訪問。

池上清子
（いけがみ　きよこ）

公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン理事長、国連人口基金東京事務所長代行、日本大学大学院教授。国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）定住促進担当や国連人口基金(UNFPA)東京事務所長などを経て、現在に至る。2016 年 9 月公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン理事長に就任。

途上国の女の子と、女性が直面する問題は複雑

「貧困の連鎖を断ち切るのは、教育」

浜田敬子さん（以下、浜田）「私がプランのカンボジアの活動地を視察したときに出会った家族は、姉妹でも大きく違いました。教育を受けた妹は、自分の将来や夢をしっかりと話しました。教育を受けなかった姉は、将来の夢もあまり明確ではないようでした。自信をもって将来の夢をもつために教育はとても大切です」

「問題の解決には、多方面からの取り組みが必要」

池上清子（以下、池上）「特に途上国では、教育の機会の少なさや早すぎる結婚の強制など、女の子と女性が直面する問題は文化的、社会的、経済的、政治的なものが複雑に絡み合っています。解決のためには、多方面から取り組む必要があります。政治面な問題で比較的新しいものとしては、2017年1月にアメリカのトランプ大統領が、人工妊娠中絶を支援するNGOへの助成を禁じるメキシコ・シティ政策を発令しました。[*1] このことが多くの女性に影響を及ぼすことが懸念されます」



国際女性デーには、イタリアを中心にミモザの花を贈る習慣があります。当日イベント会場を飾ったミモザの花は、終了後来場者に配られました。お花は、第一園芸株式会社からご提供いただきました

途上国だけの問題ではない

「子育ては社会全体で」

浜田「カンボジアでは子どもへの暴力やいじめを見つけたら、子どもが通報するシステムが機能していました。子どもが主体的に活躍していて驚きましたね。また、子育ては母親をはじめとする家族の役割というよりも、社会全体で担うものという意識が強く、その点では日本より進んでいると思います。日本はカンボジアから学べることがたくさんあると気づかされました」

「日本のジェンダーはまだまだ改善の余地がある」

池上「持続可能な開発目標（SDGs）[*2]は、途上国だけでなく先進国も達成すべきゴールです。2016年の日本のジェンダーギャップ指数[*3]は144カ国中111位。女性は出産したら働き続けるのが難しく、男性は長時間労働で子育てや家事の時間がありません。今、男の子を育てている方には、家事・育児に参加するお父さんになるよう育ててほしいとも思います」

自分たちの足元から変化を起こそう

「自分、家庭、職場、日本が変わる」

浜田「主人という言葉の代わりに、夫やパートナーという言葉を使うとか、小さい心がけで意識が変わります。ワーキングマザーが多かった前の職場では、『週2回は保育園に子どもを迎えにいってもらう』など、スタッフに夫と交渉してほしいとお願いしました。家庭の変化が職場を変え、そして日本も変えていくと考えたからです」

「女性同士がお互いに協力し合うのが大切」

池上「専業主婦、結婚していない女性、働きながら子育てをする女性など、立場が違うと100%共感し合えるのは難しいかもしれません。でもあきらめるのではなく、10%でも共感できることがあれば、そこから交流を始めて、もし相手が困っていることを知れば、助け合ったり、できることを一緒に行動することにつながればいいなあと思います」



ふたりが考える
自分らしく生きるためのヒント

池上　自分で考えて、自分で選択肢をもち、自分にとっての最良の選択肢を自分で選ぶ。この力を身につけることが一番大切。学校に行くのが当たり前の日本で生まれ育った女性には、この能力が備わっているはず。

浜田　リーダーを目指してほしい。女性リーダーが多くなると、社会が変わる。そして、女性の声が反映されやすくなる。けれども、日本の女性たちは自己肯定感が低い。自分のなかに壁を築くのではなく、どんどんチャレンジしてほしい。

女性の問題をもっと知るための用語辞典

＊1 **メキシコ・シティ政策**
アメリカ・トランプ大統領が2017年1月に発令。グローバル・ギャグ・ルールとも呼ばれ、人工妊娠中絶に関連するサービスやカウンセリングを行う米国以外のNGOに対して、米国政府からの資金援助を禁止するもの。避妊や妊産婦のケアなど、女性の性と生殖に関する健康と権利を守るサービスを、NGOが提供しにくくなるのではと懸念されている。

＊2 **持続可能な開発目標（SDGs）**
2015年9月に国連本部で採択。「ジェンダー平等を実現しよう」を含めて、持続可能な世界を実現するための17の目標を設定している。格差をなくし〝誰も置き去りにしない〟世界を目指し、途上国に加えて先進国の変容も迫っているのが特徴。

＊3 **ジェンダーギャップ指数**
世界各国の男女平等の度合いを指数化したもの。労働力人口、同一労働における賃金、予想される所得、議員や管理職、専門職と技術職の5項目における男女比率をもとに割り出される。日本は2015年の145カ国中101位から後退し、2016年は144カ国中111位。

女の子と女性の尊厳を守り、経済的自立を促す新プロジェクト2つがスタート！



7月から始まった新しいGirl's Projectの詳細をご紹介します。
プロジェクトの背景にある深刻な状況と、プラン・インターナショナルが目指す成果をお伝えします。

From

エチオピア

死に至ることもある慣習「女性性器切除から女の子を守る」プロジェクト

プロジェクトの背景

「女性性器切除」（Female genital muti-lation/cutting 以下FGM/C）はアフリカと中東地域の30カ国で、古くから根強く残る慣習です。大人の女性になるための通過儀礼・結婚の条件として、幼児期から15歳頃までに性器の一部を切除あるいは切開します。激痛と出血、感染症、後遺症、出産への悪影響のほかに、強い恐怖が心の傷として残ります。

エチオピアはFGM/Cを受けた女性の数が最も多い国のひとつです。15歳から49歳の女の子と女性の74％とその割合が高く、政府は2004年に法律で禁止しました。※1 しかし根強い慣習として今も施術が続けられています。

期待される成果

女の子が必要なケアを受けられることと、女の子自身とその家族、地域住民がFGM/Cの弊害について理解を深めること。さらに司法当局による法的措置の強化や根絶に向けた関係者の協力体制が整うことで、長期的にはFGM/Cが根絶されることが期待されます。



CASE STORY　アスナケッチさん（28歳）

「私はすべてをよいことと思っていたのです」

アスナケッチさんは12歳のときにFGM/Cを受けました。そのときの恐怖と一人で施術に臨む心細さは今も覚えています。カミソリの刃で性器を切られ、ひどく出血しました。傷口に灰と乾燥した牛糞を塗って自分で止血しました。

彼女の村では10人のうち9人が、10歳を迎える前にFGM/Cを受けます。そうしないと反抗的でふしだらな女の子になると信じられているのです。自分の幼い娘にも受けさせたとき、娘が泣き叫ぶ声に耐えきれず、大声で泣きました。



学校を拠点に意識啓発活動をする女の子たち



集団でFGM/Cを受けた女の子たち

※1　出典：Female Genital Mutilation/Cutting:A Global Concern, 2016 ユニセフ



CASE STORY　キー・コー・ムーさん（ラカイン族の女性・33歳）

「子どもの食事も十分に与えることができません」

キー・コー・ムーさんは、夫と4人の子どもの6人で暮らしています。この地域では伝統的に生計を支えるのは女性の役割とされているため、キーさんが一切の責任を担っており、他人の畑で日雇いとして働いています。

畑仕事があるのは1年に100日程度で、その稼ぎで1年を暮らしています。食事は1日にやっと2回、空腹でつらい畑仕事に耐えることもしょっちゅうです。川沿いの家に暮らす家族は常にサイクロンと高潮におびえています。



アクセスが悪く、船で学校に通う子どもたち



自然災害に弱い家で暮らす人々

From

バングラデシュ

災害多発地域に暮らす「少数民族の女性たちの収入アップ」プロジェクト

プロジェクトの背景

バングラデシュでは人口の半数近くが国際貧困ライン の1日1.9ドル以下で生活しています。※1 貧困に拍車をかけるのが、毎年のように発生するサイクロン、洪水、高潮など自然災害です。ベンガル湾に面するボルグナ県は、10年で3つの大きなサイクロンに襲われました。なかでも大きな被害を受けたのは、少数民族をはじめとする貧しい人々です。

この地域では女性が主な働き手の家族も少なくありません。わずかな土地を耕すか、日雇いの仕事を見つけるしか生計手段がないことから、一人当たりの月収が日本円で約1,300円～2,000円ほど。自然災害に備えることもできず、脆弱な家はサイクロンや高潮に耐えることができないのが現状です。

期待される成果

最も厳しい状況にある女の子と女性たちが、安定した職を得るために必要なスキルを身につけ、社会参加などの権利を奪われることなく、経済的に自立し、社会的な地位を確立することを目指します。さらに、自然災害への備えをすることによる減災も期待されています。

ご支援をお待ちしております！

Girl's Projectのご支援は、継続／都度のどちらでもお申し込みいただけます。
ご支援の詳細については、こちらをご覧ください。
https://www.plan-international.jp/join/priority/
同封のチラシもあわせてご覧ください。

※1　ユニセフ世界子供白書2016

ミャンマー

国の発展から取り残された人々「ロヒンギャ族の子どもの虐待防止」プロジェクト



勉強する時間も大切です

●プロジェクトの背景と活動方針

ミャンマーで最も開発が遅れている貧しい地域、ラカイン州には、イスラム系少数民族のロヒンギャ族が多く暮らしています。国籍がないために、移動の自由、教育や保健サービスへのアクセスや経済活動への参加が制限され、2012年に起きた暴動では多くのロヒンギャ族が土地を追われました。後に村に戻った人々も不安定な暮らしを強いられています。ロヒンギャ族以外の少数民族の人々も同様にストレスの多い状況にあります。

プロジェクトを実施するのは、ラカイン州ミンビア町の27村。子どもの心理的ケアや子どもをあらゆる暴力と搾取から守るための体制づくりなどを行います。ロヒンギャ族の15村に加えて、近隣のラカイン族の11村とチン族の1村を対象とすることで、民族間の不公平感をなくし民族間の垣根を低くすることに配慮します。

●期待される成果と主な活動内容

住民約9,400人（うち子ども4,700人）が、暴力の犠牲者となるリスクを減らす

- 「子どもにやさしいスペース」の設置と運営
- 暴力や虐待の被害にあった子どもの保護、病院など必要な施設への照合
- 暴力や虐待のリスクの高い子どもの発見と予防措置
- 「子ども保護委員会」「子どもクラブ」の設立と活動支援

現地スタッフの声

エンリコ・エンパソさん
（ミャンマーのプラン事務所 ビジネスディベロップメントマネジャー）

プランは、ミンビア町で唯一、子どもの保護に重点をおいて活動する団体です。皆さんのご支援は、身の安全を脅かされている子どもや家族にとって、命綱なのです。ご支援をよろしくお願いします。

東アフリカ

食料危機緊急支援がスタートしました



学校で食料の支援を受ける子どもたち

●プロジェクトの背景と活動方針

南スーダン、ケニア、アフリカなどの東アフリカの国々では、干ばつによる深刻な食料危機が発生し、今年2月には南スーダンの一部で飢きんが宣言されました。各国で何百万人もの人々が日々の食料に困窮しており、なかでも子どもたちの栄養不良は深刻です。干ばつに加え、長引く紛争が状況の悪化に拍車をかけています。プランは、水・食料の支給、栄養不良の治療、衛生、子どもの保護などの分野で支援を続けています。

参加者の声

スーザンさん
（南スーダンで支援を受けている18歳）

長い道のりを毎日歩いて通学しています。家には食物がなく、空腹のため黒板の字がぼやけて見えたり、体が震えたりします。それでも私は学業をあきらめません。紛争や干ばつが何もかも奪っていったとしても、知識は奪われることはないですから。

※寄付の受付は終了しました

プラン・マンスリー・サポーター、プラン一般プロジェクト、緊急支援などの取り組み

より困難な状況にいる難民や少数民族に届く支援を

緊急に必要とされている支援、未来をつくるための支援。
新年度を迎え、新しいプロジェクトがスタートしています。
その背景と、目指す目標と成果についてお伝えします。



セルビアまで逃れたシリア難民家族

ヨルダン

前向きな未来をもたらす鍵は教育！「シリア難民の子どもの教育支援」プロジェクト

●プロジェクトの背景と活動方針

2011年から紛争が始まったシリアでは、教育施設が爆撃された回数は4,000回にも上り、医療施設は2016年だけでも300回以上爆撃されました。※1国外へ逃れた人は500万人に上り、その半分は子どもたちです。プランは子どもたちを主な対象とし、難民を受け入れているシリア近隣の国々で支援活動を始めています。

シリアの隣国ヨルダンには、トルコ、レバノンに次いで多くの難民が暮らしています。約65万人が難民認定されていますが、実際は100万人以上と推計されています。

このプロジェクトでは、就学前教育支援がまったく行われていないエリアで、0～4歳の子どもたちを対象に保健・教育サービスを提供します。また、母親などの保護者が、育児に関する必要な情報を得られ、お互いに助け合える仕組みをつくります。

●期待される成果と主な活動内容

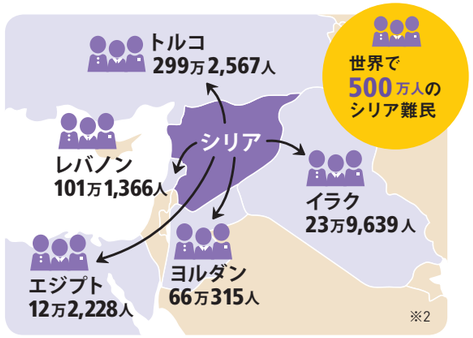
約300人のシリア難民の子どもたちに、適切な保健・教育サービスを提供

- 就学前教育センター、運動場の設置と運営
- 就学前教育センターの指導員の採用・トレーニング
- 保護者対象の育児トレーニング
- 保護者たちの相互扶助を目的とした育児グループの立ち上げ





（左）ヨルダン・アズラック難民キャンプの既存の就学前教育センターで遊ぶ子どもたち （右）就学前教育センターに通う子どもたち



現地スタッフの声

ムナ・アバスさん
（ヨルダンのプラン事務所 プログラムディレクター）

キャンプは子どもにとっても、親にとってもストレスの多い環境です。このプロジェクトを通して、安全な場所で学び、遊ぶことで子どもたちの身体的、知的発達を助け、親たちに子育てに必要な情報を提供することができます。シリア難民の子どもたちの健やかな成長を後押しするために、温かいご支援をよろしくお願いします。

ご支援をお待ちしております

プロジェクトの詳細・支援方法についてはこちらでご覧いただけます。
https://www.plan-international.jp/join/monthly/
同封チラシもあわせてご覧ください。

※1 JOINT NGO BRIEFING BRUSSELS SYRIA CONFERENCE ※2 数字は、UNHCR Syria Emergency website より、2017年5月30日時点

企業が支援する プラン特別プロジェクト

株式会社 宝建材

2012年のフィリピン「学校建設プロジェクト」をきっかけに、
毎年1プロジェクトずつ支援を続けてくださっている株式会社 宝建材。
その代表取締役である菅谷貞男さんに、プラン特別プロジェクトへの想いをうかがいました。



2014年の特別プロジェクトで完成したガーナの簡易保健所。看板には“TAKARA KENZAI Co., Ltd”の文字も！

子どもたちの命と教育にかかわる支援を続けていきます

私の妻がスポンサーとして子どもたちと交流していたことから、プラン特別プロジェクトの存在を知りました。最初の支援は2012年、フィリピンの「学校建設プロジェクト」。落成式に妻と長男と3人で参加したときには、子どもたちがダンスや歌で大歓迎してくれました。帰りには私たちが乗るボートを追いかけるように海に飛び込んで、いつまでも手を振ってくれました。

このときの体験から「毎年必ず特別プロジェクトに参加しよう」と決意し、その後はベトナムの「就学前教育施設プロジェクト」（2013年）、ガーナの「簡易保健所建設プロジェクト」（2014年）、タイの「学校建設プロジェクト」（2015年）、ラオスの「給水設備・衛生設備設置プロジェクト」（2016年）と支援を続けています。

会社のホームページにもプラン特別プロジェクトの活動について掲載しているのですが、おかげさまで仕事上でも話題になり、「私も特別プロジェクトに参加したい」と言ってくださる方もいます。また求人の際にも、国際支援に興味をもつ優秀な人材が応募してくれるようになっています。

これまでにフィリピンとベトナムの落成式に参加していますが、現地の状況はテレビなどの報道で知っているつもりでも、実際に訪れてみると、支援の必要性をさらに強く感じます。これからも企業として、子どもたちの命と教育に関係する支援を続けていきたいと思います。





（右）支援したガーナのコミュニティから、記念に贈られたマフラーを身に着けた菅谷貞男さん(株式会社宝建材 代表取締役社長)（左）今でも出産や破傷風で亡くなる人がいるガーナ。「母親や子どもたちのためになれば」（菅谷さん）との想いでプロジェクトを選ばれました

プラン特別プロジェクトQ&A 企業編

プラン特別プロジェクトとは？
A：ひとつのプロジェクトを、個人もしくは法人にまるごと支援していただくものです。

どんな特長がある？
A：支援者のご希望と活動国のニーズをすり合わせ、支援者とプランがプロジェクトの内容を一緒に作り上げていきます。

どんな支援ができる？
A：教育・保健衛生・家計の安定など8つの分野から、支援者が関心をおもちのテーマを選んでいただけます。

具体的にどんなプロジェクトがある？
A：現在ご提案できるプロジェクトには、たとえば「ベトナム：乳幼児教育施設建設プロジェクト」（約480万円）、「インドネシア：水と衛生環境改善プロジェクト」（約750万円）などがあります。

ほかの支援方法と何が違う？
A：個別の提案書と報告書をお送りするほか、プロジェクトの成果物に支援者の名前入り記念プレートを設置することができます。またプロジェクトの完了に合わせ、落成式などの記念イベントにご参加いただくこともできます（渡航にかかわる実費は、支援者のご負担となります）。

企業にはどんなメリットがある？
A：社会貢献につながるほか、社員に国際貢献への意識を高めてもらうことにも役立ちます。また法人税の寄付金控除を受けることもできます。



ガーナの「簡易保健所建設プロジェクト」で設置された、株式会社 宝建材の記念プレート

● プラン特別プロジェクトにご関心のある方、お気軽にお問い合わせください
連絡先・広報マーケティング部 TEL: 03-5481-7100 ／ Mail: hello@plan-international.jp

現地報告 **ベトナム** 少数民族の幼稚園・小学校教育改善プロジェクト

頼れる現地スタッフたちと一緒に 少数民族の子どもたちの 「教育の質」を改善していきます

From Vietnam

奥村真知子職員（現地プロジェクトマネジャー）

2016年9月末、ベトナム・ハノイにある国統括事務所に赴任しました。国全体で約150人いる職員のうち、ハノイには約50人が籍をおき、その多くが出張で地方を飛び回っています。また外国人はオーストラリア人、ドイツ人、日本人(私)の3人のみで、現地の人の力がフルに生かされています。



活動地域の子どもたちと

経済成長が著しいベトナムでも、貧しい生活を送る少数民族の方々が北部や中部にいて、私はそうした地域の子どもたちの「教育の質」を改善するためのプロジェクトの管理をしています。普段は先生方を対象にした研修や学校建設の準備などを、活動地域事務所のスタッフとも密に連絡を取りながら進めています。活動地域には1カ月半に1度ほど足を運び、現場視察をしています。

プランのベトナムは、その仕事ぶりが全プランの事務所の中でも高く評価され、スタッフの信頼も高いと聞いていたのですが、実際に赴任してみるとまさにその通りで、頼りになる人ばかりです。大きな組織の仕組みやルールに不慣れな私に、辛抱強く、親切かつていねいに教えてくれ、いつでも快く助けてくれます。赴任以来、周りとの信頼関係の構築に気を使って仕事をしてきました。これからはその関係を維持しつつ、プロジェクト全体の質をもっと高めることができるように、そして分析や改善をリードできるようになりたいと思っています。



現地の学校を視察中の奥村職員

業務報告 **東京** プログラム部

国内向けの小冊子 『被災者の心を支えるために』を 作成・配布しています



小冊子
『被災者の心を支えるために』

From Tokyo

国内支援チーム

支援者が被災者の安全、文化、尊厳などを尊重しながら、心理面への配慮をともなった支援を行うためのガイドラインとして、世界保健機関（WHO）などが2011年に作成した「心理的応急処置（サイコロジカル・ファーストエイド：PFA）」。その日本語翻訳に携わったプランは、心理士の有志で活動するケア宮城とともに、日本向けの小冊子『被災者の心を支えるために』を作成しました。東日本大震災や熊本大地震の被災地、そして防災に取り組む地域などを中心に、2012年からこれまでに、約4万7,000部を全国の心理士、教員、行政職員、保育士、NPOの方々などに配布しています。

防災や災害時の対応についての関心が高まるなか、プランは今後も支援のノウハウを共有し、サポートしていきます。



YAP のメンバーたち

ユース活動報告

ユースアンケートの結果をもとにプランへの提案を行っていきます

ユース・アドバイザリー・パネル（通称：YAP*）は、現在、高校1年生から大学4年生までの10人が活動しています。2016年12月～2017年1月には、15～24歳を対象にしたユースアンケートを実施。プラン・インターナショナルの認知度や今どきの寄付行動などをアンケート調査し、その結果を自分たちで取りまとめました。2017年4月には、事務局への結果報告が完了。今後は、未来を見据えた寄付の募集方法や、情報発信のあり方などについて、具体的な提案を行っていく予定です。

*YAP：プランの意思決定にアドバイスを行うユースグループ

「書き損じはがき・未使用はがきキャンペーン2017」へのご協力ありがとうございました！

年末年始の年賀状シーズンに書き損じたり、未使用で手元に残ったりしたはがきを有効活用して、途上国の子どもたちを応援するこの企画も今回で9回目。全国７校の学生有志が参加し、学園祭、自作ポスター、SNSの活用などさまざまな方法でアピールを行いました。その結果、計8万6,309枚のはがきが集まり、363万4,349円もの大きなご寄付をいただきました。2017年度に実施する6つのプラン一般プロジェクトに、大切に使わせていただきます。ご協力くださった皆さまに心よりお礼申し上げます。

■協力校（順不同）：
甲南女子大学文学部多文化コミュニケーション学科アイリス、昭和女子大学ボランティア委員会、創価大学学友会本部 Save Children Network 、南山大学短期大学部 伊東留美研究室Nantan Girl's Project 、富士見中学高等学校ボランティア委員会、宮城学院女子大学 LACトライアングル、明治学院大学ボランティアセンター海外プログラム事業部



プラン事務局で行われた贈呈式

あなたも参加しませんか？

プラン支援者の会からイベント開催のお知らせ

山形・秋田プランの会

第28回山形・秋田プランの会
- 日時：7月9日（日）13時～16時30分
- 会場：山形市保健センター3階　視聴覚室（予定）／山形市城南町1-1-1
- 内容：プラン職員の講演、チャイルドへの手紙書き、参加者同士の交流
- 参加費：500円
  ※7月5日（水）までに下記へお申し込みください
- 連絡・申込先：岩谷
  Mail：tadaya-i@chive.ocn.ne.jp

プラン広島の会 f

お手紙書き会
- 日時：7月15日（土）、8月19日（土）、9月16日（土）　14時～16時
- 会場：広島市まちづくり市民交流プラザ フリースペース（2Fまたは3F）／広島市中区袋町6-36
- 内容：チャイルドへの手紙書き
- 参加費：無料、事前申込不要
- 連絡先：小村
  Mail：naokomura@kej.biglobe.ne.jp

プラン名古屋の会 W f

プラン職員を囲んで定例会
- 日時：8月19日（土）　13時30分～16時30分
- 会場：ウィルあいち　第一会議室
- 内容：プラン職員に来ていただき、お話をしていただきます。有志で懇親会もあります。楽しみにお待ちしています
- 参加費：500円
- 申込先：プラン名古屋の会
  Mail：info@plan-nagoya.sakura.ne.jp

プラン・フレンズ（開発教育ボランティア） f

小・中学生向けワークショップ
「途上国に学校を建てよう！
～体験ゲームで学ぶ～」
- 日時：8月26日（土）　13時30分～16時
- 会場：JICA地球ひろば（市ヶ谷駅より徒歩10分）
- 内容：「もし自分たちの学校を建てるとしたら、どんなことをしたらいいのだろう?」――プラン・フレンズの開発教育ワークショップでは、途上国の教育の問題を、体験ゲームを通して考えます。今回は、実際に村に学校を建てた、ネパールからのスペシャルゲストによる体験トークもあります！
- 対象：小学校高学年～中学3年生（保護者見学可）
  ※ 高校生・大学生はボランティアとして参加できます
- 定員：20名（先着順・参加費無料）
- 申込方法：お名前、学年、保護者同伴の有無、保護者の電話番号をお書きの上、下記へお申し込みください
- 問合せ・申込先：小田島・三石
  Mail：planfriends@yahoo.co.jp

プラン長岡近郊の会

「市民活動フェスタ」
ブース出展・スタッフ募集
- 日時：9月9日（土）
- 会場：アオーレ長岡
- 内容：「市民活動フェスタ」にブースを出展します。プランの活動のPRを一緒にお手伝いしてくださるスタッフを募集しています。ご興味のある方は、下記までご連絡ください
- 申込先：熊倉
  Mail：n-kumakura@nifty.com

プランとやまの会 f

活動再開につき、
イベント等に参加できるメンバー募集！
- 内容：イベント会場等で、プランの活動のPRを一緒にお手伝いしてくださるメンバーを募集します。ご連絡お待ちしております
- 連絡先：樋口
  Mail：toyama5210@gmail.com

Wウェブサイト fフェイスブック
上記アイコンのある会については、以下のプラン・インターナショナルウェブサイトから、各会のページにリンクできます
https://www.plan-international.jp/supporter/plankai/
■支援者の会に関するお問い合わせ先：
プログラム部　TEL：03-5481-6100

※「プラン・ニュース」No. 106は、10月上旬にお届け予定です

「夏休み読書感想文コンクール2017～想像するチカラ。行動するチカラ。」作品募集

公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパンが主催する夏休み読書感想文コンクールは、今年で4年目を迎えます。今回も、Because I am a Girlキャンペーンに関連した新たな書籍を課題図書に加え、中学生・高校生が、途上国の女の子が課題に立ち向かうチカラや女性のリーダーシップについて知り、身近な社会の課題と関連づけて考え、自分ならどうするか、何ができるかを考える企画として実施します。

応募作品のなかから、中学生・高校生各3人を「最優秀賞」「優秀賞」「特別賞」に選出。また、100作品以上の応募のあった学校には「学校賞」が贈られます。入賞者は2017年11月19日（日）に発表し、角田光代審査員長の講評とともに表彰します。

ご家族、知人、学校の先生などにもぜひお知らせください。多くの方のご参加をお待ちしています。

【募集期間】
6月21日（水）～ 9月11日（月）（必着）
【内容】
以下の課題図書（ウェブサイト参照）のなかから1冊を選び、1,200字以内で感想文を執筆してください。
［課題図書］
『わたしはノジュオド、10歳で離婚』（河出書房新社）／『国をつくるという仕事』（英治出版）／『わたしは13歳、学校に行けずに花嫁になる。未来をうばわれる2億人の女の子たち』（合同出版）／『Because I am a Girl　わたしは女の子だから』（英治出版）
【審査員長】
角田光代氏
（直木賞作家／プラン支援者）
【応募方法】
ウェブサイトより応募書類をダウンロードし、必要事項を記入のうえ、作品と一緒に下記まで郵送してください。
【お問い合わせ・送付先】
〒154-8545　東京都世田谷区三軒茶屋2-11-22-11F
公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン　広報マーケティング部
「読書感想文コンクール2017」係
TEL：03-5481-0030
Mail：voice@plan-international.jp
ウェブサイト：
http://www.plan-international.jp
※詳細は同封のチラシをご覧ください。



女の子のパワーについて考えてみよう

“東京マラソン2018チャリティ”に参加しませんか？

公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパンは、東京マラソン2018チャリティ事業の寄付先団体です。このチャリティへの寄付により、「バングラデシュのスラムに簡易保健所を整備し、子どもたちとお母さんたちの命を守るプロジェクト」を実施します。10万円以上のご寄付をいただいた方は、ご希望により東京マラソン2018にチャリティランナーとして参加することができます。詳しくは、以下の公式ウェブサイトをご覧ください。
【チャリティランナー申し込み期間】
2017年7月1日（土）～7月31日（月）
【寄付金受付期間】
2017年7月1日（土）～2018年3月31日（土）
【お問い合わせ・お申し込み先】
東京マラソン2018チャリティ公式ウェブサイト
https://www.runwithheart.jp/



プラン支援者の藤野さん。プランのTシャツを着用して、東京マラソン2017を走ってくださいました
©東京マラソン財団



東京マラソン2018チャリティに参加して、バングラデシュの母子を支援しよう！

さらに！ 増田明美さんによるランニングクリニックを開催

プラン・インターナショナルにご寄付くださったチャリティランナーを対象に、今秋、公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン評議員の増田明美さんによるランニングクリニックを開催いたします。詳細は後日発表しますので、どうぞお楽しみに！ なお、希望者多数の場合は、抽選とさせていただきます。

コミュニティ訪問に行ってきました！

INDIA
インド


2つの家族で記念写真♪

スポンサー：徳橋さとみさん／東京都
チャイルド：コーシュリアさん（女の子／訪問時8歳）

息子たちに、地道に支援を続ける母の姿を見てもらうことができました！

長男が中学生になったとき、「何か世界のためによいことをしたい」と思い立ち、プラン・スポンサーシップでチャイルドとの交流を始めた徳橋さとみさん。昨年、病気で手術を経験したことなどがきっかけとなり、2人の息子さんとともにコミュニティ訪問に出かけました。

私にとって2人目のチャイルドであるコーシュリアとの交流が始まったのは、2012年。インド映画が大好きで、訪れてみたい場所だったから「インド」、我が家は息子2人で娘がいないので「女の子」を希望して、紹介していただいたのが彼女でした。

毎年プランから送られてくる成長の記録や、まだ小さいコーシュリアに代わって従姉のお姉さんたちが書いてくれる手紙がとても楽しみで、いつかはコミュニティ訪問をしたいと考えていたのですが、実際には日々の忙しさに追われ延び延びに。ところが昨年、病気を患ったことから、「人間の命には限りがある」と痛感。やりたいことは、できるうちにやらなければ！と思いました。ちょうど長男が社会人になるタイミングで、息子たちと一緒に一週間もの旅行に行くチャンスもなくなるだろうと思い、3人で行くことにしました。

コミュニティ訪問の当日は、プランの現地スタッフの方たちがホテルまで迎えに来てくださり、車で40分ほどのところにあるコーシュリアの自宅へ。そこには彼女とお父さん、おばあちゃん、手紙を書いてくれているお姉さんたちをはじめ、親戚一同が集合？というほど大勢集まっていて、大歓迎してくれました。

家の中では、持参していたプランの報告書や、お姉さんたちが書いてくれた手紙を見せて「ちゃんと日本に届いていますよ」と伝えると、みなさんとても喜んでくださいました。また、文房具やけん玉などのお土産を渡し、息子たちが折り紙を折ってあげると、お父さんが嬉しそうにテレビの上に飾ってくださいました。

コーシュリアは、本当に小さくてかわいらしい女の子。恥ずかしがり屋なのですが、「お客さんの飲み物が足りないよ～」とおばあちゃんに言いに行ってくれるような、よく気のつく優しいお嬢さんでした。今度は彼女がティーンエージャーになった頃、また会いに来たいなと思いながら、コミュニティ訪問を終えました。

今回の訪問では、私の小さな支援でもこんなに喜んでくださる方々が本当にいるんだと実感できました。息子たちにも、自分の母親がこういう支援を地道にやっているんだというところを見てもらえましたし、今回の体験が“堆肥”となり、将来、自分が親になったときに何かを感じてもらえるのではないかと思っています。

旅のスケジュール

2017年	2月26日（日）	成田空港～デリー（直行便で約9時間）
	2月27日（月）～3月1日（水）	ヴァナラシ、アグラ（タージマハル）等を観光
	3月2日（木）	午前：コミュニティ訪問／午後：買い物、荷造りなど
	3月3日（金）～4日（土）	デリー～成田空港（直行便で約8時間）

● コミュニティ訪問は、
出発日の 8 週間前までにお申し込みください。
手続き方法などの詳細は、ウェブサイトをご覧ください
→ http://www.plan-international.jp/supporter/visit





歓迎のしるしとして家の入口に描かれた花の絵と花びら。お姉さんたちはイラストも描いてくれました





（上）交流がスタートした 4 歳のとき、初めて送られてきた写真　（右）8 歳になったコーシュリアは、とてもかわいい女の子に成長していました

PLAN NEWS
2017 SUMMER NO.105

公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン
〒154-8545 東京都世田谷区三軒茶屋 2-11-22 サンタワーズセンタービル 10F
TEL：03-5481-6100　FAX：03-5481-6200
www.plan-international.jp

表紙写真：ベトナムの男の子